

言動力が

原動力!



▲自作の“カブ”を持って笑顔でポーズ!!



サバヌシ総会2019

主催：サバヌシ総会実行委員会 共催：鯖江市
日時：平成31年2月11日(月) 13時00分
場所：鯖江市民活動交流センター

今回で2回目を迎えるサバヌシ総会。

「市民は市の『株主』である」をモットーに、市民力を体感するこのイベント。

『ひとりひとりの言動力が原動力』のキャッチコピーのもと、多くのサバヌシ(サバエの株主)たちが集まったその中身、少しずつご紹介していきます。

『市民力は地域にあり!』

まず第一部は、『サバヌシ増殖中! まちづくり応援団』。

平成25年度から5年をかけて、市内全10地区で開催された『市民まちづくり応援団養成講座』は、地区に住む市民自らが、自分たちの地域のまちづくりをしていくために、その核となる人材を増やして、いくことを大きな目的としていました。

養成講座終了後、まさにそれぞれの地区で「増殖」した皆さんが、自分たちの特色や個性を活かした活動をしているのが各地区の『まちづくり応援団』。

第一部は、その活動発表の場です。『まちづくり応援団』発想の源流ともなった北中山地区の、『北中山まちづくり委員会』の森本さんを筆頭に、

特徴的な活動をしている5地区の皆さんが次々にステージに上がり、生き生きとした表情で地域活動の楽しさや成果を語ります。

オリジナルの衣装を身にまったり、時には冗談を交えたり、観覧していた方が突然ステージに上げられる一幕があったりと、とても和気あいあいとした雰囲気。

各地域、市民が一丸となって知恵を出し合い、活性化に取り組んでいる様子を垣間見ることができました。

最後は、北中山地区で健康を願って行われる「会合のシメの定番」、万歳三唱ならぬ『笑いの三笑』!

会場が元気な笑いで満たされます。全国でも注目される鯖江の市民力は、間違いなく、『地域』と『市民一人一人』に根づいていることを再確認できる時間となりました。



▲第一部では、北中山・鯖江・立待・神明・新横江各地区の皆さんが、まちづくりの活動を紹介

『ブっ飛んだ発想大歓迎☆』

続く第二部は、それぞれの参加者が鯖江の未来を考え、アイデアを出しまくる『サバヌシ未来会議』。

各テーブル、ファシリテーター(進行役)を中心に、お題に沿って真剣にアイデアを出し合います。

この日は、前半と後半に区切った2部構成で、前半のお題は次の4つ。

- ①鯖江市民全員でサバイバルゲーム! 10日間外部支援なしで
 - ②どうやって切り抜ける?
 - ③犯罪件数世界一の街って?
 - ④『さばエテーマパーク』どこになにをつくる?
- ④『鯖江株式会社』設立!
無駄をなくす? 魅力をのばす?

…と、どれもユニークな内容。「レッサーパンダを放し飼いにしてみよう」なんて夢のあるアイデアが聞



▲アイデア出しの大切なルールは『否定しない』こと



▼締めは『笑いの三笑』で「わーっはっはっはっはっ!」

けるのも、世代を超えた自由な会議ならではの。後半のお題は「市民力No.1のまちってどんなまち?」。

少し難しいテーマでしたが、「長寿日本一」「子ども議会がある」等、様々な意見が飛び交いました。

そして最後は、自作した紙製のカブを持って会場を歩き。

昨年同様「これは!」と思う意見を見つけて、カブを投票していきます。

一番多く票を集めたチームの机にはみるみるカブの山が!

面白いアイデアもまわりの評価も『大収穫』となっていました。

▼子どもたちも、真剣に“カブ”を置くテーブルを吟味中





▲紙芝居や体操など個性溢れるコンテンツも



▲▶第3部では、牧野市長も各ブースを巡って交流

▼鯖江小唄の踊りも華を添える



『そんな団体さんもあったんだ〜!』

第3部は、サバヌシたちの出展で賑わう『まちづくり大博覧会』。市民活動団体、社会の課題解決を大きな目的に据える『ソーシャルビジネス』の担い手、そして、まちづくり応援団の有志の皆さんなどがブースを構成し、会場をぐるりと囲みます。好きな団体で話を聞いたり、お買い物が出来たり。また、ステージ横にはまちづくり応援団の活動をまとめたパネル展示もあり、どこに行こうか迷ってしまいます。

牧野市長が順番に各ブースを訪問する様子は、会場内のスクリーンにも映し出され、各団体さん一押しの商品や楽しいエピソードを会場全体で共有とても和やかなムードがあたりを包み込んでいました。途中、地域の踊り文化を楽しむ団体さんによるパフォーマンスも披露され、会場内を踊りながら練り歩く姿は美しく、思わず買物をする手も止まりません。

また、学生の地域活性化プランコンテストで提案された地域通貨のアイデア「sabaco（サバコ）」の利用体験も実施。出展者のワークショップに参加したり、ブースのスタッフに事業内容などを

鯖江市民の底力を再認識した今回のサバヌシ総会。

『市民主役』を旗印に、最近では海外でも名を知られつつある鯖江市ですが、行政や一部のリーダーだけがどんなに頑張っても、成果はうわべだけのものになりがちです。

もし、鯖江に本当の『素晴らしさ』があるとしたら、それは、普通に生活している、市民一人一人のエネルギー『市民力』のたまものではないでしょうか。

「一見、地味に思える小さな活動や、人生での何気ない行動が繋がって、影響し合うことで、地域のエネルギーは生まれてくるもの…」

そんなイメージを持てるからこそ、質なのではないでしょうか。

についての話を聞くことで、感謝の気持ちと一緒に『sabaco』券が手渡され、会場内のお買い物に利用することもできました。

活動する側のアピールと、参加や利用をする側のニーズが出会う場としての大博覧会。

後日、ある出展団体関係者からの話で、サバヌシ総会で出会った参加者の方から、お仕事のオフアワーがあったとのこと。

商品や情報のやり取り以上に、気持ちの繋がりが生まれた時間となったようです。



▲『まちづくり応援団』のパネルを熱心に読む参加者

◀JK課オリジナルスイーツも早々に完売



市外からの飛び入り参加者も見られた他、当日ふらりと会場を訪れて、ガッツリ参加された市民の皆さんも多かった『サバヌシ総会2019』。それは、このイベントを身近なものとして受けとっていることの現れだったのかもしれない。

終始笑顔が溢れる会場からは、一人一人の明るい未来が見えてきます。

『サバヌシ』として集い、自分たちの未来と可能性を語り合うこの総会、今回は参加を逃してしまっただ方も、次回ぜひ気軽に覗いてみてはいかがでしょうか。

きっと、サバヌシとしての「新しいあなた」に出会えますよ。

『ディープ&リッチ』

最後は、サバヌシ同士の懇親会。地域に関わる団体さん達にお願いした美味しい料理&スイーツと共に、今日一日の思い出や今後の未来について、色々な話が広がります。

参加者の皆さんのアピールタイムも話の種となり、次の会話が生まれます。立場や世代、仕事や価値観…まさに多様性に富んだ皆さんの交流は、きっと新しいアイデアを生み出すきっかけになったのではないのでしょうか。

自然と同様、「違うもの」同士が触れあうところから、新しい何かが見つかることもあります。

懇親会は、そんな『ディープ・オブ・サバヌシ』を楽しめる濃厚な時間となりました。



▲美味い料理をビュッフェスタイルで



▲スピーチで“思い”を語る

